



加藤 元の



と暮らして  
みませんか

2

これから犬を飼おうと考えている家族も多いと思います。犬の飼い方は決して難しいものではありません。ただし、犬を飼う前に、家族でいろいろな問題を話し合っておく必要があります。

なぜなら、犬を飼うということは、正しい飼い方と、人と犬との付き合いが始まるということなのです。犬は人間のおもちゃでもなければ、思いどおりになる生き物でもありません。犬も人間と同じように、感情も個性も豊かな生き物だからです。家族との相性もあります。家族の一員として、「いいお付き合い」をするためにも、家族の意思疎通と合意が必要だということです。

## 家族の一員

# 最初の100日で決まる犬の一生

まず、犬を飼う目的です。家族の仲間として飼うのか、賞を取らせたいのか、子犬を産ませたいのか、などです。目的に応じて犬の住環境を考えます。その上で、わが家にふさわしい品種、サイズ、毛の長さや色などを決め、正しい飼い方を勉強しておきましょう。

飼い始める時期も大切です。犬の最初の1年は人の15歳に相当し、特に最初の100日が重要で、犬の一生が決まるといわれます。飼い始めは生後60日前後がいいでしょう。

理由は、60日前後にならないと子犬の心身の成長がまだ未熟だからです。60日までは飼い主と母犬の愛情をいっぱい受け、兄弟と一緒に遊ぶことが精神的にも肉体的にも大切な時期だからです。

この時点で、子犬がどの程度「社会化」ができているかがわかります。人見知りしないで、喜んで人に近寄ってくるかどうかで、どんな育ち方と躰をされてきたかがうかがえるのです。

「飼ってから、こんなはずではなかった」と、捨て犬にするようでは飼い主として失格です。今でも殺処分になる犬は多いのです。そうならないためにも、家族の一員として心身ともに健康で相性のいい子犬を育てたいものです。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長  
日本ヒューマン・アニマル・ボンド・  
ソサエティ会長)

《産経新聞2004年4月11日掲載》